

チベットの危機に関する声

チベット危機に関する平和的完全解決を求める日本政府に対する公開書簡

VOICES ON THE CRISIS OF TIBET

拝啓、日本国内閣総理大臣様

本年三月十日以降、チベットで起きた危機的状況に対し、私たちは同じ人類として深い悲しみを覚えます。

チベットは独自の言語・文字を有し、数世紀に渡って独自の文明を築いてきました。なかでもインド後期仏教の伝統を継承して発達した宗教を中心とする文化は、中央アジアの一大文明であることは既に世界的にもが認められている事実です。この人類にとって極めて重要な無形の文化遺産が、いま絶滅の危機に追い込まれています。人類の知性が創り上げた文明は、どのようなものでもそれを暴力によって滅ぼすべきではありません。

チベット問題は既に半世紀も国際社会のなかで置き去りにされてきました。これまでその抜本的解決を目指して真剣に取り組まれたことはありません。日本をはじめとする国際社会は、チベット問題を「中国国内の内政問題」として傍観してきました。しかしその結果、私たちがこれまで眼にしてきたものは、今回のような悲劇の連鎖にほかなりません。さらにより憂慮すべきこととして、この一連の悲劇もまた実は氷山の一角に過ぎないという事実があります。度重なる武力的鎮圧はこの問題を解決するものでないばかりでなく、むしろより規模な悲劇の原因を生み出し続けています。

日本国政府は「平和貢献国家」を標榜しつつも、これまで諸外国と同じようにチベット問題に関しては「内政不干涉」の原則という傍観者の立場をとってきました。今回のチベット危機に対する欧米諸国の反応と比較すれば、我が国の反応は著しく消極的なものでした。しかしこうした反応は、日本のアジアでの役割を考えれば、近隣で起こった人道の危機に際し、あまりにも無責任な態度としか思えません。我が国はこのような態度を根本的に見直さなければならぬ時期に来ていると思われれます。

チベット問題の平和的解決は、我が国にとってアジアにおける平和貢献活動の一環として、今後より積極的に位置付けられなければなりません。私たち日本人すべての願いは、いまずぐにでも罪もないチベットの人々、さらには中国国内の虐げられている人々に平和と安定、そして公平な裁判を受ける権利がもたらされることです。我が国がこのままこの状況を傍観視し続けることは、暴力による文明の破壊に加担することにはほかならないと思われれます。

私たちは、我が国政府に以下の二点を中心とする具体的な対策を講じることを望みます。

一、諸外国と協力の上、中国政府による人権蹂躪や文明の破壊活動を即刻中止させる
チベット問題の深源には、国際的な常識を超えた基本的人権の蹂躪や暴力による文明の破壊活動があります。このことは既に国際的な人権団体による調査によっても明らかです。我が国はこのような事実を単なる内政問題としてではなく、すべての人類に共通な憂慮すべき問題であると位置付け、それを即刻中止するよう働きかけねばなりません。我が国は、中国政府に対し国際社会の一員として遵守すべきモラルをもっと尊重するように訴えなければなりません。中国が国際社会のなかで孤立せず、協調性をもつよう、同じアジアの国家として我が国はもっと積極的に働きかけるべきなのです。今後も人権蹂躪が継続するのならば、諸外国と連携の上しかるべき処置を講じる必要があると思われれます。

二、ダライ・ラマ法王と胡錦濤国家主席の無条件での対話の場を設置する

チベットの人々が精神的に崇拝しているダライ・ラマ法王はこれまで徹底した非暴力主義を貫き、今回の一連の声明にも、双方にとって利益のある対話による平和的解決を望んでいます。チベットの問題を平和的に解決するためには、このダライ・ラマ法王と中国政府が直接対話を行うことが最も有効な手段であると思われれます。そしてそのことは既に国際世論でも常識となっています。しかしこれまで対話に際して様々な条件が課せられ、実質的な和解を実現する両者の対話が行われたことはありません。この問題を全面的に解決するためには、我が国は諸外国と連携し、両当事者を無条件に議論させ、実質的な和解を遂げる対話の場を早急に設けることが急務であると思われれます。

以上

変化はあなたの心からはじまります。

私たちによく似たチベットの人たちがいま死んでいます。

彼らはいままではこれも自分の業の深さだと信じ、結構遠慮がちに住んでいました。富士山の上くらいの高さのその土地はもともと彼らの土地でしたが、いまは別の巨大な国と一緒になってしまうたからです。

最近彼らのなかで若者たちが昔の旗をふって、声をからしながら叫んでしまいました。それから毎日、いまま夜が怖くて眠れない日々がその場所では続いています。夜になると捕まえられて、どこかに連れて行かれるからです。

彼らの王国がなくなつて、もう五十年も経っています。

でも彼らには国よりもっと大切な人がいます。それがダライ・ラマです。ダライ・ラマは観音菩薩の代わりに彼らの世界にやってきた人です。

いつも他者のために生きることが人間の生きる意味であると教えています。

いまは遠く引き離されていますが、いつもチベットの人たちはダライ・ラマを信じています。

チベットで続いているこの苦しみはいつ終わるのでしょいか。

彼らはいままで前世の業である罰を受けなければいけないのでしょいか。

きつといつかはチベットの人々がいた痕跡は全部なくなってしまうんでしょいか。

でも来世を信じるチベットの人々にとつてそんな未来は悲しすぎます。

私たちの日本はチベットと同じ仏教国で、世界有数の経済大国です。

そんな私たち日本人にチベットの人たちは期待してくれています。

でも日本は戦争犯罪国として中国にいつも責められてばかりです。

だからいままでも他の国と同じようにずつとチベットのことを傍観してきたんです。

でもこの先も、罪のない人が更にどんどん死ぬの知らないふりをするのでしょいか。

もうチベットの人々に苦しみが続くのを終わらせてあげたくないですか。

いま日本にはほんとうの平和貢献とは何かが問われているのです。

「チベットの危機に関する声」呼びかけ人（現在増殖中・四月三日現在）

井内真帆（天谷大学 助教）

石濱裕美子（早稲田大学 教授）

一瀬昌嗣（物理教員）

井本勝幸（四友僧伽代表）

岩崎匠佐士（業らくゼミナル代表）

上田みどり（広島経済大学 教授）

上野ちひろ（月刊「寺門興隆」編集記者）

岡野竜馬（広島国際平和会議 2006 議事録編集委員）

岡本永司（真言宗豊山派大本山護国寺貫首）

小武正教（浄土真宗本願寺派西寺住職）

尾津直美（有縁会社トライアロー代表取締役）

小野田俊蔵（佛教大学 教授）

小原美千代（ZOCリカ代表）

金原一（日本青矢会講師 2005 年度中国フロッグス会長）

金城一（国府（漆家））

久保 隆（チベットサポートグループ ZOC 代表）

小池美和（翻訳家）

肥塚啓司（カトリック広島司教区）

小林海暢（真言宗泉涌寺派元管長）

小林暢善（真言宗泉涌寺派大本山浄土寺住職）

高橋さつき（ノルブクリエイト）

田北冬子（広島経済大学 講師）

龍村ゆかり（地球交響曲プロデューサー）

長田幸康 (LOVE TIBET 主宰)

中村 一期 (社団法人広島青年会議所 2006 年度理事長)

中村 豊 (日本聖公会神戸教区主教)

名和玲子 (ジャパン・ユニオン代表)

西井裕昭 (広島国際平和会議 2006 実行委員会委員長)

根本裕史 (日本学術振興会特別研究員)

野村正次郎 (大谷大学真宗総合研究所研究員)

野村沙永 (広島国際平和会議 2006 議事録編集委員)

林 慶仁 (天台宗大慈寺住職)

平岡宏一 (清風学園副理事長)

福田洋一 (天谷大学 教授)

藤田理麻 (画家)

藤 千慧 (ZOC ビスビルダーズ事務局長)

前野博紀 (華道家・草月流師範)

丸山智恵子 (有縁会社オープンセンス代表取締役)

水本和実 (広島市立大学広島平和研究所准教授)

三宅伸一郎 (天谷大学 講師)

村上徳樹 (曹洞宗天祐寺住職)

村上和雄 (筑波大学名誉教授)

村上宏治 (写真家)

森 明子 (医師)

吉田正裕 (真言宗御室派大本山大聖院座主)

渡辺香代子 (有縁会社リリオ)

私たちにできること、それはまず私たちのためにある
私たちの日本政府に願いを伝えることです。



- 私たちはひとりでもより多くの方にこの趣旨にご賛同して頂きたいと考えております。本趣旨にご賛同くださる方は、下記フォームにご署名ください。
- みなさまから頂きましたメッセージならびに署名はしかるべき時期に達しました時点で、すべてプリントアウトの上、日本政府へ提出する予定にしております。
- 本公開書簡の趣旨に賛同するが、立場上、名前やコメントを公開して欲しくないという方がおられる場合は、署名フォームの「非公開希望」にチェックをお入れください。日本政府に提出する場合にのみご芳名を使用させていただきます。

【ご署名フォーム】

インターネットに接続できる方はネット署名をご利用ください。

本趣旨に賛同して、署名いたします。

ご芳名: _____

ご住所: _____

ご所属: _____

メールアドレス: _____ @ _____

ひとことメッセージ: _____

署名年月日 2008 年 月 日

名前・所属は公開しても構わない

名前の非公開を希望する

呼びかけ人となり他の人の署名も集める。

最新の進捗情報をメールさせていただきます。

取り扱い者:

尾道 大宝山 千光寺

この署名用紙は以下の取り扱い者が事務局へ、郵送、FAX で御送りください。インターネットがご利用できる方はそちらをご利用ください。

「チベットの危機に関する声」事務局

郵便送り先: 730-8799 広島市中区広島中央郵便局留 広島国際平和会議

ファックス: 020-4622-7026 ※このファックス番号は一部電話からは送信できません。

<http://www.tibetsupport.net/>

